

2017年度（平成29年度）
事業計画書



2017.3.24

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	16
4. キリスト教活動	19
5. 研 究 活 動	21
6. 委 員 会 活 動	36
7. 広 報 活 動	43
8. 施 設 ・ 設 備 ・ 経 費	46
9. 財 政 の 概 要	49

和泉短期大学の沿革

1956年5月 (昭和31年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960年5月 (昭和35年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964年6月 (昭和39年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人 クラーク学園 の設立準備に着手した。
1965年4月 (昭和40年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員40名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966年3月 (昭和41年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971年11月 (昭和46年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976年4月 (昭和51年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4月	学生入学 定員250名 に変更認可された。
8月	全学神奈川県相模原市の 新校舎 に移転した。
1978年2月 (昭和53年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981年2月 (昭和56年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982年4月 (昭和57年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985年4月 (昭和60年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員80名)
1986年6月 (昭和61年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988年3月 (昭和63年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。(定員100名)
4月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990年4月 (平成2年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認可された。
1991年3月 (平成3年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。

1992年2月 (平成4年)	保母養成課程が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4月	和泉老人福祉専門学校の名義変更を行い、和泉福祉専門学校とした。
9月	花村春樹学長退任、後任として教授北原歌子氏が学長に就任した。
1995年4月 (平成7年)	北原歌子学長退任、後任として阪田勝三理事長が学長に就任した。
1996年4月 (平成8年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事平良氏が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として讃岐和家氏が学長に就任した。
1999年4月 (平成11年)	教育職員免許法改正に伴い、再課程認定の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000年4月 (平成12年)	児童福祉科の名義変更を行い、児童福祉学科とした。
2001年4月 (平成13年)	男女共学制度を導入した。
2002年4月 (平成14年)	讃岐和家学長退任、後任として教授伊藤忠彦氏が学長に就任した。
2006年5月 (平成18年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典が行われた。
2008年3月 (平成20年)	(財) 短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6月	平良理事長退任、後任として伊藤忠彦学長が理事長を兼任した。 (深町正信氏が理事長に就任するまでの間)
10月	伊藤忠彦理事長退任、後任として理事深町正信氏が理事長に就任した。
2010年3月 (平成22年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4月	和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を開設した。(定員 20 名)
2013年4月 (平成25年)	学校法人クラーク学園の名義変更を行い、学校法人和泉短期大学とした。
2014年4月 (平成26年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授佐藤守男氏が学長に就任した。
2015年3月 (平成27年)	(財) 短期大学基準協会の 2 回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016年5月 (平成28年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演

設置学校 学校法人和泉短期大学

理事長 深町 正信 (ふかまち まさのぶ)

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名	入学定員	収容定員
児 童 福 祉 学 科 (2 年制)	250 名	500 名
専攻科介護福祉専攻 (1 年制)	20 名	20 名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を实践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

2015年10月28日教授会改訂

本学の建学の精神 (キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー (愛と奉仕) に基づく教育課程表科目群の1群 (教養)、2群 (原理)、3群 (知識・技能) 4群 (実践) のカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士 (児童福祉学) の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
2. 保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。
3. 保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を實踐できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2015年7月22日教授会改訂

CP I：教養

「キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を再構築する」

CP II：原理

「多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養う」

CP III：知識・技能

「子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける」

CP IV：実践

「学んだ価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積みながらキャリア形成の基礎を培う」

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2016年1月27日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な専門的知識・技能・価値を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に求める学習経験：児童福祉学科】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、保育・福祉の学びの基盤となります。児童福祉学科入学希望者には、高等学校卒業までに下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に求める学習経験：専攻科介護福祉専攻】

保育士養成課程での学びを基盤に、主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学ぶ専攻科では、保育士養成課程での学びのなかで、下記の学習経験を有することが望ましいと考えます。

1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

学校法人和泉短期大学基本構想

建学の精神
スクールモットー

【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】
【愛と奉仕】【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第5章16節】

－2017年度－

建物耐震工事
(天井等の非構造物)
3号館、4号館

安心安全対策
災害対策用井戸設置工事
防犯カメラ設置工事

児童福祉研究室
の創設(研究誌、
パンフレット発行)

内部監査室の設置
業務監査の充実に
より教育研究支援
体制の強化を図る

大学を取り巻く環境

18才人口の減少	大学進学率		大学等の 財政赤字 (支出超過)	大学の離学者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大学	短期大学			
1992年 205万人 2016年 119万人 2017年 120万人	24.6% 51.5% 52.0% (見込)	11.7% 5.1% 4.9% (見込)	2015年度 大学 40.8% 短大 56.8%	2013年度末 80,000人 2.65% (経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等) 非正規雇用の増加	専門学校への 進学者増加 2016年度 22.1%

今年度の目標と課題

<p>1. 経費削減を図る</p> <p>学校法人会計による経常収入の90%を学生生徒等納付金収入に依存している本法人を考えると、2017年度は出来るだけ支出の無駄を省き、予算を出来るだけ重点項目に振り分けて、慎重に執行する必要がある。</p>	<p>5. 外部資金の獲得体制強化</p> <p>2017年度は、学生数減少により収入の見込みが厳しい状況下で、教職員が一体となって、外部資金の獲得(経常費補助金、経営改革総合支援事業等)に力を入れていく。</p>
<p>2. キャンパス集中化計画</p> <p>第2号基本金組み入れ計画として、現在の校舎を中心に新たに周辺の土地取得を計画しているため、取得の際には、第2号基本金引当特定資産により、校地取得の実現を慎重に取り組んでいく。</p>	<p>6. 専攻科介護福祉専攻国家試験対策の充実</p> <p>2018年介護福祉士国家試験導入により、専攻科介護福祉専攻の学生全員が介護福祉士国家試験に合格できる体制を構築する。</p>
<p>3. コンプライアンスとガバナンス強化</p> <p>理事、評議員、監事の指導のもとに監査制度の充実を図り、健全な大学運営を心掛ける。更に、昨年度から実施してきた学長のリーダーシップを一層、確立するために、コンプライアンス(規則の遵守)とガバナンス(統治、管理)とを進化させる。</p>	<p>7. 離職者防止対策の検討</p> <p>毎年度就職率は希望者のほぼ100%が専門職である。しかし、大学等の卒業生の就職後3年以内の離職率が最も多いが、この傾向が本学の卒業生にもみられたため、今後の課題としてその対応を真剣に検討していく。</p>
<p>4. 三つのポリシーの有機的関わり</p> <p>アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが有機的に関わり合いながら、地域を一層元気づけ、職業と結びついた、より充実した教育、研究共同体とするためになお一層の真摯な努力を積み重ねる。</p>	<p>8. 事務局体制の整備</p> <p>予測不可能な未来社会において技術の急激な変化に対応し、最低限IT操作の出来る学生の育成のために、数年かけて、学内のネットワーク及びICT環境の整備に少しずつ努めてゆく。併せて、管理部門(経理・施設・庶務・法人)ユニットの統合を行い、効率及び円滑な運営体制を整備する。</p>

1.学校法人和泉短期大学

「2017年度事業計画」

理事長 深町 正信

昨年度は学校法人和泉短期大学が設立され創立60周年記念の年でありました。創立記念式典、祝賀会、記念コンサート等を催し、多くの大学、学校関係者、地域の方々、関係機関の代表にご参加を頂くことが出来たことは誠に意義深く、また、感謝の年でもありました。

和泉短期大学は全国でも稀な児童福祉学科を設置する単科短期大学です。また、一年制の専攻科介護福祉専攻を設置していますが、昨年度、学長のもとで、専攻科を今後どのようにするかを検討して頂きましたが、当分、現状のまま存続することに決定しました。現在、和泉短期大学の建学の精神であるキリスト教信仰に基づく人格の形成とキリスト教教育の理念に基づいて教育された卒業生たちの多くが、神奈川県下の社会福祉施設、保育園、幼稚園、認定こども園等で良い働きをしています。今年度もより質の高い保育者、介護福祉士の養成を目指して、教職員が一致して、一層、真摯に努力をしてゆく覚悟であります。

幸いにも、現在、本学の卒業生たちが神奈川県下を中心として各地で良い働きをなし、活躍されているので、そのお陰もあり、本学の卒業生の就職率は昨年も、例年のように、良好であり、ほぼ100%でありました。しかし、昨今の全国にある大学、短期大学の卒業生の離職傾向が高く、全国平均からみても、就職後3年以内の離職者が最も多いとされていますが、この傾向が本学の卒業生にもみられることは今後の課題の一つであろうと考え、その対応を真剣に検討しているところであります。

入学者について言えば、入学定員超過率の厳格化により2017年度は一般的傾向として三大都市圏の有力私立大学が約7,800人の入学定員増を行ったため、これまでは大学に不合格であった者が4年制大学に多く進学することになり、その結果として、全国的に、短期大学が受験者、合格者の両方を大幅に減らす大きな要因とされています。その結果、2017年度の和泉短期大学の入学予定者は、開学以来はじめて入学定員(250名)を満たすことが出来ませんでした。

このことは本学校法人の財務状況(経常収入)の90%を学生からの学納金によっている本法人の学校会計を考えると、今年度は出来るだけ支出の無駄を省き、予算を出来るだけ重点項目に振り分けて、慎重に執行する必要があると思われれます。したがって、今年度実施を予定していた新キャンパスの整備とか、校舎の改築計画については、最近の建築業者による耐震診断の結果からも、まだ当分の間は、このままで十分に使用出来るとの診断結果

でありますので、更に十分な時間をかけて、慎重に対応していくことにいたします。

更に、和泉短期大学のキャンパスの集中化計画は、現在の校舎を中心に新たに周辺の土地を購入しなければならないので、その時には第2号基本金引当特定資産を用いて、新たな土地を購入して、その実現を慎重に取り組んでゆきたいです。

今年度も例年のように、理事、評議員、監事の方々のご指導のもとに、健全な大学運営に心掛けてゆきたいと願っています。更に、昨年度から実施してきた学長のリーダーシップを一層、確立するために、コンプライアンス（規則の遵守）とガバナンス（統治、管理）とを深化させることを願っています。その上で、和泉短期大学がますます三つのポリシー（1）アドミッション・ポリシー、（2）ディプロマ・ポリシー、（3）カリキュラム・ポリシー、が有機的に関わり合いながら、地域を一層元気づけ、職業と結びついた、より充実した教育、研究共同体とするためになお一層の真摯な努力を積み重ねてまいりたいと強く願っています。

本学のスクールモットーである「愛と奉仕」の精神に堅く立ち、三つのポリシーと有機的に関わりつつ、職業と結び付き、地域、社会に本当に活かせる生き生きとした学問の場となるように教職員、校友、法人役員が一層具体的に努力し、協力し合って、健全な大学経営、運営を進めてゆきたいと願っています。

今年度から小規模ながらも「児童福祉研究室」の種を蒔き、年一回、啓蒙的な「研究誌」、パンフレットを発刊して、日本の社会、地域社会に少しでも具体的に貢献することが出来るようにするための準備を開始することとしたいです。

また、大学の監査の在り方が従来の会計監査を中心とする監査に加えて、新たに業務監査にも力を入れることを求められているので、まずは、本学でも、本年度から1名の非常勤の業務監査役を置くこととしたいです。更に、これからの大学、短期大学は、予測不可能な未来社会であり、特に、技術の急激な変化に対応するため、IT機器を最低限の操作の出来る人材の養成を求められています。本学としても最低限IT操作の出来る育成のために、アクティブラーニングの学びを、今年度から数年かけて、そのための整備と必要な器具の購入に少しずつ努めてゆきたいです。

今年度も、週1回催される「学内運営協議会」で、出来るだけ迅速に、しかし、慎重に学内の諸問題を共有し、その解決を共にはかってゆき、よりよい和泉短期大学の形成運営に当たり、風通しの良い、和泉短期大学の経営、運営を計って参りたいと願っています。

法人事業計画

○理事会

2017年	5月	20日(土)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
2017年	10月	27日(金)	理事会(予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2018年	1月	26日(金)	理事会	於：和泉短期大学
2018年	3月	23日(金)	理事会(予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2017年	5月	20日(土)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
2017年	10月	27日(金)	評議員会(予算骨子)	於：ユニコムプラザさがみはら
2018年	3月	23日(金)	評議員会(予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

▶ 出席者：理事長、学長、チャプレン、副学長(教務部長)、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2017年	4月	5日(水)	4月	12日(水)	4月	19日(水)	4月	26日(水)	
	5月	10日(水)	5月	17日(水)	5月	24日(水)	5月	31日(水)	
	6月	7日(水)	6月	14日(水)	6月	21日(水)	6月	28日(水)	
	7月	5日(水)	7月	12日(水)	7月	19日(水)	7月	26日(水)	
	9月	6日(水)	9月	13日(水)	9月	20日(水)	9月	27日(水)	
	10月	4日(水)	10月	11日(水)	10月	18日(水)	10月	25日(水)	
	11月	1日(水)	11月	8日(水)	11月	15日(水)	11月	22日(水)	
	11月	29日(水)	12月	6日(水)	12月	13日(水)	12月	20日(水)	
	2018年	1月	10日(水)	1月	17日(水)	1月	24日(水)	1月	31日(水)
		2月	7日(水)	2月	14日(水)	2月	21日(水)	2月	28日(水)
		3月	7日(水)	3月	14日(水)	3月	28日(水)		

○法人行事

2017年	4月	17日(月)	イースター特別礼拝
	5月	15日(月)	創立記念礼拝
	6月	5日(月)	ペンテコステ礼拝
	10月	16日(月)	召天者記念礼拝
	12月	4日(月)	クリスマスツリー点火祭
	12月	16日(土)	クリスマス・コンサート
	12月	18日(月)	クリスマス礼拝
2018年	1月	9日(火)	新年礼拝

2.和泉短期大学

「2017年度事業計画」

学長 佐藤守男

学校法人和泉短期大学は昨年度、創立60周年を迎え、5月に創立記念礼拝、記念式典、祝賀会、記念講演会、12月には記念コンサートを開催し、本学の関係者や地域の方々と共に「学校法人和泉短期大学創立60周年」をお祝いしました。

これから先も建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」を堅持し、福祉・保育、幼児教育の専門職の養成にあたっていきたくと思います。

ところで、今年も、大学を取り巻く状況は厳しく、少子化に伴う大学の定員充足率の低下が見込まれます。その上、保育職や介護職において新聞、テレビ等でネガティブな報道がなされ、本学におきましても開校以来初めての入学定員250名を満たすことができませんでした。また、経済の悪化等により、中途退学者もますます増えることが見込まれます。これらの状況を調査・分析し、「教育の質」、並びに、「学生支援の強化」を一層努めて参りたいと思います。

1) 学内のガバナンス及びコンプライアンスの強化

- ①委員会組織の見直し
- ②学事の簡素化

2) 教育活動の強化

- ①FD&SDの強化
- ②オフィスアワーの見直し
- ③GPAの活用
- ④シラバスの見直し
- ⑤「授業に対する授業評価」の改善
- ⑥教職員の授業参観による授業評価

3) 研究活動の強化

- ①児童福祉研究室の設立
- ②科学研究費申請の奨励

4) 学生生活の向上にむけての支援

- ①退学、除籍、休学、留年学生の状況改善

5) 相模原市及び市内大学との連携強化

6) 和泉短期大学父母会・同窓会いずみ・後援会との連携強化

(1) 学事予定

2017年	4月	1日(土)	入学式
		3日(月)	前期オリエンテーション①、 2年前期始業礼拝、グループミーティング、健康診断 専攻科健康診断、教科書販売 全教員打合せ会
		4日(火)	前期オリエンテーション②、2年教科書販売
		5日(水)	新入生歓迎大会、専攻科前期授業開始
		6日(木)	1年健康診断、教科書販売、2年前期授業開始
		7日(金)	1年新入生研修会
		10日(月)	1年前期授業開始
		17日(月)	イースター特別礼拝
		22日(土)	オープンキャンパス①
5月		10日(水)	2017年度第1回創立記念フェア
		13日(土)	ミニオープンキャンパス①
		15日(月)	創立記念礼拝
		17日(水)	実習連絡会(幼稚園)
		24日(水)	高校教員対象進学説明会①
		25日(木)	高校教員対象進学説明会②
		28日(日)	オープンキャンパス②
6月		3日(土)	1年保育士を志す学生の集い
		5日(月)	ペンテコステ礼拝
		7日(水)	市内高校保育・福祉担当教員研究会
		10日(土)	ミニオープンキャンパス②
		12日(月)	2年現場実習(幼稚園)〈6月30日(金)まで〉 1年、専攻科避難・防災訓練、感謝の祈り
		17日(土)	オープンキャンパス③
		19日(月)	専攻科介護実習Ⅰ〈6月26日(月)まで〉
7月		3日(月)	1年幼稚園ふれあい体験 2年実習予備日
		5日(水)	かながわ高齢者福祉研究大会
		8日(土)	オープンキャンパス④
		12日(水)	2017年度第2回サマーフェア
		24日(月)	前期終了感謝礼拝
		28日(金)	1年、専攻科前期授業終了
		29日(土)	1年、専攻科前期定期試験① オープンキャンパス⑤
		31日(月)	1年、専攻科前期定期試験② 保育実習Ⅰ成績報告締切
8月		1日(火)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)〈8月10日(木)まで〉 1年夏期休業開始〈9月3日(日)まで〉
		3日(木)	2年夏期休業開始〈8月27日(日)まで〉 iA0入試Ⅰ期1回目
		4日(金)	iA0入試Ⅰ期2回目
		5日(土)	ミニオープンキャンパス③
		11日(金)	専攻科夏期休業開始〈9月3日(日)まで〉
		18日(金)	1年、専攻科成績報告書締切日
		22日(火)	iA0入試Ⅱ期1回目 インターナショナル・フィールドワーク海外研修〈8月26日(土)まで〉

- 8月 24日(木) iA0入試Ⅱ期2回目
おもちゃインストラクター養成講座1回目(2回目25日(金))
- 26日(土) オープンキャンパス⑥
- 27日(日) 2年夏期休業終了
- 28日(月) 1年一般教養試験対策講座(31日(木)まで)
2年前期授業再開
- 9月 2日(土) ミニオープンキャンパス④
- 3日(日) 1年、専攻科夏期休業終了
- 4日(月) 1年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、教科書販売、再試験発表
- 5日(火) 2年前期定期試験①、専攻科後期授業開始
- 6日(水) 1年、専攻科前期再試験(8日(金)まで)
- 8日(金) 2年前期授業終了
- 9日(土) 2年前期定期試験②
- 11日(月) 1年後期授業開始
2年現場実習(保育所・児童福祉施設)(9月27日(水)まで)
- 13日(水) 市内高校長との教育研究会
- 16日(土) オープンキャンパス⑦
- 22日(金) 2年成績報告書締切日
- 23日(土) iA0入試Ⅲ期1回目
- 28日(木) 2年実習予備日
- 29日(金) 2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、教科書販売
- 30日(土) iA0入試Ⅲ期2回目
- 10月 2日(月) 2年後期授業開始
- 4日(水) 2年前期再試験(6日(金)まで)、専攻科実習連絡会
- 7日(土) ミニオープンキャンパス⑤
- 16日(月) 召天者記念礼拝
- 18日(水) 2017年度第3回サンクスギビングフェア
- 21日(土) iA0入試Ⅳ期(10月)
- 23日(月) 専攻科入試i日程
- 27日(金) 学生祭週間(30日(月)まで)
- 28日(土) いずみ祭、個別相談会①、②(29日(日)まで)
- 11月 1日(水) 専攻科介護実習Ⅱ(30日(木)まで)
- 11日(土) 入学者選考日[指定校、卒業生・在学生家族、キリスト者推薦、公募、専門高校]、専攻科A日程入試
- 15日(水) 実習連絡会(保育所)、専攻科帰校日
- 25日(土) ミニオープンキャンパス⑥
- 30日(木) 保育実習Ⅱ成績報告書締切
- 12月 4日(月) クリスマスツリー点火祭
- 6日(水) 専攻科介養協学力評価テスト
- 8日(金) 専攻科B日程入試
- 9日(土) iA0入試Ⅳ期(12月)
- 11日(月) アドベント礼拝
- 13日(水) 実習連絡会(児童福祉施設)、
2017年度第4回クリスマスフェア
- 16日(土) ミニオープンキャンパス⑦
- 18日(月) クリスマス礼拝

	12月 23日 (土)	冬期休業開始 (1年:2018年1月8日(月)まで、2年・専攻科:2018年1月9日(火)まで)
2018年	1月 8日 (月)	1年冬期休業終了
	9日 (火)	新年礼拝、1年実習授業(13:00~14:30) 2年、専攻科冬期休業終了
	10日 (水)	1年、2年後期授業再開、専攻科国家試験対策学内テスト
	11日 (木)	専攻科後期授業再開
	12日 (金)	1年後期授業終了
	13日 (土)	1年後期定期試験①
	15日 (月)	1年現場実習(保育所)(1月30日(火)まで)
	20日 (土)	iA0入試IV期(1月)、社会人特別選抜入試、専攻科C日程入試
	24日 (水)	専攻科国家試験対策講座(26日(金)まで)
	26日 (金)	1年成績報告書締切日
	29日 (月)	2年、専攻科後期終了感謝礼拝
2月	2日 (金)	2年後期授業終了
	5日 (月)	1年後期再試験発表、実習授業(1,2時限) 2年後期定期試験①(6日(火)まで)
	7日 (水)	一般入試、1年実習授業(1,2時限) 2年追・再実習追加分(幼稚園)(9日(金)まで)
	13日 (火)	1年保育実習(児童福祉施設)(2月28日(水)まで) 2年追再実習(2月28日(水)まで) 専攻科後期授業終了
	14日 (水)	iA0入試IV期(2月) 2年成績報告書締切日 専攻科後期定期試験①(15日(木)まで)
	19日 (月)	専攻科成績報告書締切日
	27日 (火)	2年、専攻科後期再試験
	28日 (水)	iA0入試IV期(3月)、専攻科D日程入試
3月	2日 (金)	2年追再実習者再試験
	5日 (月)	1年実習授業(1時限)、1年後期再試験(6日(火)まで)
	12日 (月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝・修了証書授与式予行練習 専攻科E日程入試
	13日 (火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	24日 (土)	オープンキャンパス⑧
	29日 (木)	おもちゃインストラクター養成講座(30日(金)まで)

(2) 実習

2017年	6月 12日 (月)	~6月30日(金)	2年幼稚園
	6月 19日 (月)	~6月26日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	8月 1日 (火)	~8月10日(木)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月 11日 (月)	~9月27日(水)	2年保育所・児童福祉施設
	11月 1日 (水)	~11月30日(木)	専攻科介護実習Ⅱ
2018年	1月 15日 (月)	~1月30日(火)	1年保育所
	2月 7日 (水)	~2月9日(金)	2年追再実習追加分(幼稚園)
	13日 (火)	~2月28日(水)	1年児童福祉施設、2年追再実習

(3) 2018年度 児童福祉学科入試日程

iA0 入試Ⅰ期

2017年7月19日(水)～7月29日(土)16時 11日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1回目試験申込期間
2017年8月3日(木) 午前・午後	1回目試験
2017年8月4日(金) 午前・午後	2回目試験
2017年8月7日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2017年8月9日(水)	出願許可通知発送日
2017年8月10日(木)～8月23日(水) 14日間	出願手続期間
2017年8月28日(月)	合否判定教授会(追認)
2017年8月31日(木)	合格通知発送日
2017年9月1日(金)～9月11日(月) 11日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅱ期

2017年8月7日(月)～8月17日(木)16時 11日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1回目試験申込期間
2017年8月22日(火) 午前・午後	1回目試験
2017年8月24日(木) 午前・午後	2回目試験
2017年8月28日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2017年8月30日(水)	出願許可通知発送日
2017年9月1日(金)～9月19日(火) 19日間	出願手続期間
2017年9月27日(水)	合否判定教授会(追認)
2017年9月28日(木)	合格通知発送日
2017年9月29日(金)～10月11日(水) 13日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅲ期

2017年8月25日(金)～9月16日(土)16時 23日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	1回目試験申込期間
2017年9月23日(土) 午前・午後	1回目試験
2017年8月25日(金)～9月23日(土)16時 30日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	2回目試験申込期間
2017年9月30日(土) 午前・午後	2回目試験
2017年10月2日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2017年10月4日(水)	出願許可通知発送日
2017年10月5日(木)～10月16日(月) 12日間	出願手続期間
2017年10月25日(水)	合否判定教授会(追認)
2017年10月26日(木)	合格通知発送日
2017年10月27日(金)～11月6日(月) 11日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅳ期(10月)

2017年9月21日(木)～10月13日(金) 23日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2017年10月21日(土) 午前	試験
2017年10月25日(水)	出願許可判定教授会(追認)
2017年10月26日(木)	出願許可通知発送日
2017年10月27日(金)～11月10日(金) 15日間	出願手続期間
2017年11月22日(水)	合否判定教授会(追認)
2017年11月23日(木)	合格通知発送日
2017年11月24日(金)～12月5日(火) 12日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅳ期(12月)

2017年11月8日(水)～12月2日(土)16時 25日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2017年12月9日(土) 午前	試験
2017年12月11日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2017年12月12日(火)	出願許可通知発送日
2017年12月13日(水)～1月12日(金) 31日間	出願手続期間
2018年1月22日(月)	合否判定教授会(追認)
2018年1月24日(水)	合格通知発送日
2018年1月25日(木)～2月5日(月) 12日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅳ期(1月)

2018年1月9日(火)～1月15日(月)16時 7日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2018年1月20日(土) 午前	試験
2018年1月22日(月)	出願許可判定教授会(追認)
2018年1月24日(水)	出願許可通知発送日
2018年1月25日(木)～2月5日(月) 12日間	出願手続期間
2018年2月7日(水)	合否判定教授会(追認)
2018年2月8日(木)	合格通知発送日
2018年2月9日(金)～2月21日(水) 13日間	入学手続期間

iA0 入試Ⅳ期(2月)

2018年1月29日(月)～2月5日(月)16時 8日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2018年2月14日(水) 午前	試験
2018年2月14日(水)	出願許可判定教授会(追認)
2018年2月15日(木)	出願許可通知発送日
2018年2月16日(金)～2月23日(金) 8日間	出願手続期間
2018年2月28日(水)	合否判定教授会(追認)
2018年3月1日(木)	合格通知発送日
2018年3月2日(金)～3月7日(水) 6日間	入学手続期間

IAO入試Ⅳ期(3月)

2018年2月6日(火)～3月7日(水)16時 30日間 簡易書留で最終日必着または窓口提出	試験申込期間
2018年3月12日(月) 午後	試験
2018年3月12日(月) 夕刻	出願許可判定教授会(追認)
2018年3月13日(火)	出願許可通知発送日
2018年3月14日(水)～3月16日(金) 3日間	出願手続期間
2018年4月2日(月)	合否判定教授会(追認)
2018年3月17日(土)	合格通知発送日
2018年3月19日(月)～3月24日(土) 6日間	入学手続期間

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、公募推薦、専門高校推薦

2017年10月31日(火)～11月7日(火)16時 8日間 郵送は4日(土)消印有効。窓口は7日(火)16時まで	願書受付期間
2017年11月11日(土) 午前及び午後	入学選考日
2017年11月11日(土)	合否判定教授会
2017年11月12日(日)	合否通知発送日
2017年11月13日(月)～11月24日(金) 12日間	入学手続期間

社会人特別選抜

2018年1月9日(火)～1月15日(月)16時 7日間 郵送は11日(木)消印有効。窓口は13日(土)16時まで	願書受付期間
2018年1月20日(土) 午前	入学試験日
2018年1月22日(月)	合否判定教授会
2018年1月24日(水)	合否通知発送日
2018年1月25日(木)～2月5日(月) 12日間	入学手続期間

一般入試

2018年1月11日(木)～2月2日(金)16時 23日間 郵送は31日(水)消印有効。窓口は2日(金)16時まで	願書受付期間
2018年2月7日(水) 午前	入学試験日
2018年2月7日(水)	合否判定教授会
2018年2月8日(木)	合否通知発送日
2018年2月9日(金)～2月21日(水) 13日間	入学手続期間

3. 専攻科介護福祉専攻

1 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築

(2017年度生より介護福祉士国家試験導入、13科目数、125問)

国家試験の合格基準と受験状況

- ・筆記試験の合格基準は以下の通り、**2つの項目の両方を満たす**ことが必要
- ・問題の総得点の**60%程度を基準**として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者
→例：第28回合格ラインは71点、得点率59%
- ・試験科目の「10科目群(29回目より11科目群)」すべてにおいて得点があった者(1群でも「0点」があったら不合格)
- ・受験状況、合格率は新カリキュラムになる前は50%前後で推移していたが、第26回では64.6%、第27では61.0%、第28回では57.9%と高い合格率が続いている

引用) 介護福祉士国家試験受験ワークブック 2017 中央法規 2016

*専攻科生は介護福祉士国家試験の受験を義務化

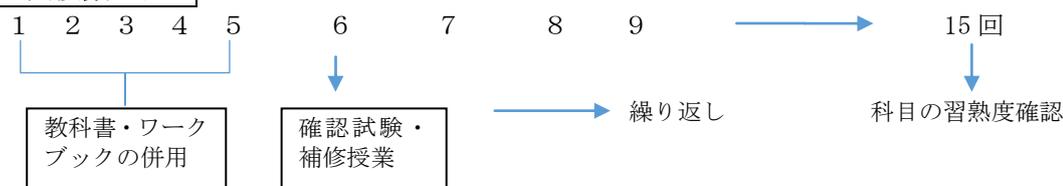
*全国平均点より低い科目(例年の卒業共通試験の科目の結果)の強化

- 強化すべき科目・社会の理解(生活と社会福祉、介護サービスの理解)
- ・介護の基本(介護の役割、介護実践の基本)
 - ・発達と老化の理解(人間の発達と老化)
 - ・障害の理解(障がいの基本的理解、障がい者の生活支援)
 - ・総合問題
 - ・医療的ケア(2017年度より追加)

(1) 勉強が苦手な学生へのフォローと把握

- ① 専任教員担当科目の授業内容について、科目間の教授内容を明確化
- ② 1科目毎にコマシラバスを作成し、学生に1コマで教授する内容を提示
- ③ コマシラバスの活用を行い、学生の理解度を確認し、その中で学びの確認
- ④ 授業内容や試験内容を自分でまとめ、勉強する習慣化のためにポートフォリオの活用
- ⑤ カリキュラムの整理として、後期の「生活と社会福祉」15コマを8コマに変更し、個別指導の時間に当てる
- ⑥ 学生には参考資料として「介護福祉士国家試験 受験ワークブック 中央法規」購入、教科書と併用しながら授業展開
- ⑦ 15コマの中で、適宜ワークブックの振り返りと確認試験を実施し、その結果をもとに担当教員が補習授業を行い、再試験を実施
- ⑧ 非常勤講師も含め、教員間の意思統一を図る
- ⑨ 学生と教員の連携を密に行うために、専攻科委員会以外でも臨時委員会を開催

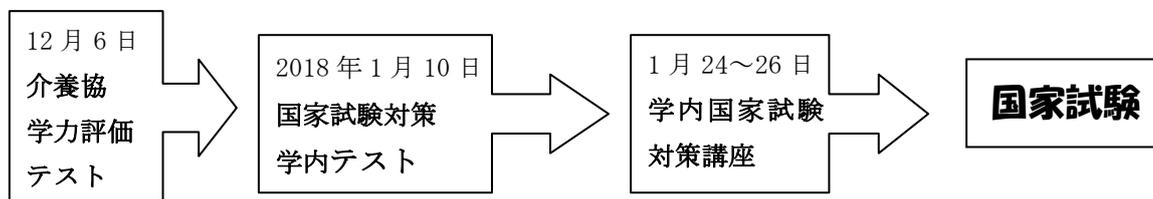
15回授業モデル



(2) 介護福祉士国家試験対策

- ①12月6日介護協学力評価テスト(介護福祉士国家試験模擬テスト)実施

- ②学生は自己採点后、できなかった部分を「国試学習ノート」としてポートフォリオ活用
- ③2018年1月10日(水) 国家試験対策学内テスト
 - ・理解度の低い科目を中心に授業の進捗状況に応じて、補習を実施
- ④2018年1月24日(水)～26日(金)終日学内国家試験対策講座
 - ・国家試験への心構えと試験科目を過去問対策等からさらに理解を深める
- ⑤2018年1月28日(日) 介護福祉士国家試験(会場未定)



- 2 実習の充実
 - (1) 施設見学実習の実施
 - (2) 学生個々に応じた実習指導の充実
 - (3) 実習巡回指導の充実
 - (4) 事例研究の指導
 - (5) 事例研究発表会の開催
 - (6) 事例集の作成
 - (7) 実習連絡会の開催
 - (8) 実習先などの高齢者・障がい施設へのボランティアの充実
- 3 就業力支援をする
 - (1) ポートフォリオへの取り組みと評価
 - (2) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
 - (3) 専攻科修了生による職場体験の発表
 - (4) 特別講義の実施
- 4 専攻科入学者数の増加を図る
 - (1) 専攻科学生による学内向けの宣伝(実習体験の様子を表現するなど)
 - (2) 専攻科生の入学前教育を開催
 - ①事例発表会に参加 ②児童福祉学科の入学前教育に協力 ③入学前課題に取り組む
- 5 地域貢献活動
 - (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修に対して講師とし、介護職員のスキルアップ支援
 - (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、初任者研修の企画と会場提供
 - (3) 青葉2丁目の町内会と専攻科学生の連携
- 6 卒業生への再教育支援の検討

2018年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程(学内、卒業見込者対象)

2017年10月2日(月)～10月16日(月)16時 15日間 郵送は13日(金)消印有効。窓口は16日(月)16時まで	願書受付期間
2016年10月23日(月) 17時30分	入学試験日
2017年10月25日(水)	合否判定教授会
2017年10月26日(木)	合否通知発送日
2017年10月27日(金)～11月6日(月) 11日間	入学手続期間

A 日程

2017年10月31日(火)～11月7日(火)16時 8日間 郵送4日(土)消印有効。窓口は7日(火)16時まで	願書受付期間
2017年11月11日(土) 9時30分	入学試験日
2017年11月11日(土)	合否判定教授会
2017年11月12日(日)	合否通知発送日
2017年11月13日(月)～11月24日(金) 12日間	入学手続期間

B 日程

2017年11月13日(月)～12月1日(金)16時 19日間 郵送は29日(水)消印有効。窓口は1日(金)16時まで	願書受付期間
2017年12月8日(金) 17時30分	入学試験日
2017年12月11日(月)	合否判定教授会
2017年12月12日(火)	合否通知発送日
2017年12月13日(水)～1月12日(金) 31日間	入学手続期間

C 日程

2018年1月9日(火)～1月15日(月)16時 7日間 郵送は11日(木)消印有効。窓口は15日(月)16時まで	願書受付期間
2018年1月20日(土) 9時30分	入学試験日
2018年1月22日(月)	合否判定教授会
2018年1月24日(水)	合否通知発送日
2018年1月25日(木)～2月5日(月) 12日間	入学手続期間

D 日程

2018年2月9日(金)～2月21日(水)16時 13日間 郵送は19日(月)消印有効。窓口は21日(水)16時まで	願書受付期間
2018年2月28日(水)	入学試験日
2018年2月28日(水)	合否判定教授会
2018年3月1日(木)	合否通知発送日
2018年3月2日(金)～3月9日(金) 8日間	入学手続期間

E 日程

2018年2月23日(金)～3月5日(月)16時 11日間 郵送は2日(金)消印有効。窓口は5日(月)16時まで	願書受付期間
2018年3月12日(月)	入学試験日
2018年3月12日(月)	合否判定教授会
2018年3月13日(火)	合否通知発送日
2018年3月14日(水)～3月19日(月) 6日間	入学手続期間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。2017年度委員会メンバーは、チャプレン西田恵一郎、片山知子、深町和哉、今泉治子、芹澤薫

3. 活動内容

3-1 年度聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年度聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2017年度年間聖句「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)」とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるように礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神に基づくスクールモットー「愛と奉仕」について礼拝を通し理解を深める。聖書のみ言葉を聴き、説教や奨励を通したメッセージにふれ、賛美と感謝を捧げて祈る礼拝を、毎週月曜日にチャペルアワーとして計画し実施する。前期・後期終了感謝礼拝、卒業・修了感謝礼拝を含め、年間28回のチャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝(下記の特別礼拝を計画、実施する。)

- 1) イースター礼拝(4月17日)
- 2) 創立記念礼拝(5月15日) (キャリアデザインⅠ)
- 3) ペンテコステ礼拝(6月5日)
- 3) 召天者記念礼拝(10月16日)
- 4) クリスマスツリー点火祭(12月4日)
- 5) クリスマス礼拝(12月18日) (キャリアデザインⅠ)
- 6) 卒業・修了感謝礼拝(3月12日)

3-5 新入生研修会

4月7日に新入生研修会を実施する。宗教部オリエンテーションと礼拝、講演を通して、今後の学びの礎を培う。(講師：井上とも子氏)

3-6 クリスマスコンサート(子育て支援プログラム「はっぴい」と共催)

12月10日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファン ド・ジャパ ンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファン ド・ジャパ ンのスポンサーシッププログラム、及び児童福祉施設、関連団体等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I.C.F.)

聖書に親しむことを通して学生同士および教員との交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美の奉仕を行う。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での演奏の奉仕、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 「教えとともにⅡ」(チャペルメッセージ集)発行

2014年度に作成した「教えとともに」(チャペルメッセージ集Ⅰ)の続編作成に向け、2014年度後期以降のチャペルアワーでの説教・奨励について、原稿を依頼・収集・作成し、2017年新入生に配布する。

3-12 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2017年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

全学的なチャペルアワーへの出席を促す。キリスト教に基づく建学の精神を理解できる機会として関心を持ち、参加しようと思える雰囲気を作ることを目指す。クラークホールの宗教的環境の素晴らしさを折々に伝える。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、委員の役割についても周知し、それぞれの役割を遂行するよう促していく。また、ポートフォリオのチャペルアワーシートの活用や、他教員の協力を得て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員会の活動は昨年と同様、年間5回の委員会を開催する。さらに、いずみ祭への展示発表参加、クリスマスツリー点火祭の企画運営など学生主体の活動になるよう支援する。

学生聖歌隊の活動が安定的に継続していくことをめざし、参加への呼びかけを年間通して行う。I.C.F.の参加を促すためにキリスト教推薦入学生など対象者への呼びかけを積極的に行い活動の充実を図る。

いずれの活動も神様の恵みのもとに、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教学校として、地域貢献を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研究活動

佐藤守男教授

- 【研究課題】 ・ 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究
・ 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
- 【教育課題】 ・ 造形表現等の教材研究
- 【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

武石宣子 特任教授

- 【研究課題】 ・ リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏を含む)に関する研究
・ 音楽と身体表現を媒介とした脳育成法（乳幼児及び高齢者）
・ プラスティック・アニメの研究（子どもの歌を題材、小道具を用いて）
・ 保育の表現技術（ボイスアンサンブル、オノマトペアンサンブル、わらべうた）
・ MLの教材研究
・ 子どもの歌の簡易伴奏法の研究（グレード別アレンジ法）
- 【教育課題】 ・ リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
・ 器楽(ML・ピアノ)の授業改革（カリキュラムの工夫と改革）
・ 親子リトミック（親子ふれあい遊び、子育て支援）の指導方法の充実
・ 教育法：《ダルクローズ・リトミック》（0歳～高齢者まで）
- 【所属学会等】
○大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
○日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
○日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会
○初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
○アクティビティ・サービス協議会 ○幼児音楽研究会

松浦浩樹教授

- 【研究活動】
1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究
 2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
 3. キリスト教保育の現状と課題
 4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2015年まで）
 5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
 6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）
 7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題
 8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)
上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学

内で関与する学生、保護者（親子）との実際的ななかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・ 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
- ・ 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・ 幼児保育実践研究会
- ・ キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
- ・ キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・副委員長
- ・ 保育教諭養成課程研究会(文科省重点課程研究)
- ・ 全国保育士養成協議会（平成 29 年度第 56 回大会）実行委員

【地域貢献】

- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・ 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
- ・ 保育所指定管理者選定・および第三者評価委員（東京・荒川区、座間市）

【その他委員会等】

- ・ 教務委員会の部長として、これまでの歴史を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
- ・ 教務委員会の下部委員会として、キャリアデザインセンター委員会・キャリアファイル運営委員会・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザイン I. II」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またラーニングセンター開設に伴い組織的有機的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。
- ・ 「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、キャリアファイル運営委員を

基にキャリアファイル等の教材開発・更新、あるいは今後の委員会運営と改善を執り行う。

- ・ キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献（連携）の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
- ・ キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、キリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業におけるカリキュラム内容を工夫することに努める。
- ・ 和泉短期大学の独自の研究所設立が将来構想として望まれている。このことを念頭に置き、2016年度専任教員による「自主研究会」を企画し開催することができた。当初は2か月に1度の計画であったが、専任教員の学務が忙しく、3回の開催で終わった。2017年度は年度内5～6回開催を目指し、教員の研究時間の確保等を含めた勤務体制・勤務内容の整備を図り、教務委員会から提案していきたい。

櫻井 奈津子 教授

【研究課題】 ・ 家庭養護推進の課題

「養育里親」「小規模住居型児童養育事業」を対象とした支援活動において、児童相談所、児童福祉施設、里親支援機関での支援活動に協力し、里親支援に携わるワーカーの課題を探る。

里親支援活動への協力を通して、里親のニーズを探る。

・ 要保護児童への自立支援

NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業への参加・協力を通し、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、社会的養護の元で育つ子どもたちへの自立支援のあり方、具体的な実践について研究する。

【教育課題】 ・ 担当科目（社会的養護の原理・社会的養護の内容・子どもと暮らし・実習指導）の内容充実。

全体として、具体的に理解しやすい教材（パワーポイント、ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題提供により、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題についての理解を促してゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中で援助を行う保育者に必要な知識・技術を学び、子どもにとってより望ましいケアのあり方について、グループでの作業（ディスカッション・課題解決型のワーク等）を通して理解していく。保育実習Ⅰ（施設）への事前学習と連動させ授業を展開する。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。開講時期が後期なので、クリスマス・正月を意識して教材を提供する。選択科目であるため、履修者の状況・希望により柔軟性を持たせたい。近隣施設への見学も取り入れていく。

「実習指導」では、実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。

担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに欠席が多いなど、単位修得・資格取得に課題を抱える学生への個別対応を丁寧に行う。

・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】

・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業平成29年度里親認定前研修 講師、相模原市養育里親更新研修 講師 等）

・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。

・相模原市における児童福祉活動・子どもの権利擁護への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会・児童部会・虐待検証委員会等の委員会活動、養育里親更新研修講師、相模原市子どもの権利条例に基づく子どもの権利救済委員活動、相模原市児童相談所との連携等）

・横浜市における児童福祉活動への協力（横浜市児童福祉審議会委員）

・東京都八王子児童相談所里親委託等推進委員会委員

・第三者委員活動

社会福祉法人あすはの会

社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会グリーンヒル相模原

【参加予定学会】

日本子ども家庭福祉学会（関西福祉科学大学）

日本子ども虐待防止学会（幕張メッセ）

保育士養成協議会研究大会（聖徳大学）話題提供者として参加

鈴木 敏彦 教授

【研究課題】

・戦前期・経済保護事業に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）

・福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（障害分野を中心に）

・障害者相談支援とソーシャルワークに関する研究

【教育課題】

・短期大学における入学前教育・卒後教育のあり方について

・短期大学における退学防止に関する方策について

・児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について

・保育ソーシャルワークのあり方について

- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、社会保障法学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、日本高齢者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

- ① 継続の研究課題である、「乳幼児の“あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」について、執筆したテキストブックの内容を実証する視点にたった親子支援と、この視点を踏まえた学生支援
- ② 現代生活にマッチした、乳幼児の運動あそびの普及を図る（理論と実際）
*親子様の協力を得ながら研究を進める
*文科省が提示した「幼児期運動指針」に基づいた啓蒙活動
(ア)協力団体（予定）：冒険遊び場・保育所・幼稚園等
- ③ 幼少年体育指導士会の養成プログラムの普及
- ④ 冒険遊び場の養成プログラムの試案作成

【教育課題】

- ① 保育内容『健康』：ア、1年生の履修科目である点を鑑み、特に前期履修学生に対しては興味喚起のためトピックスを多く提示し、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促し、イメージ力を開発する イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。場合によっては前期の到達目標をスリム化する ウ、各回の授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる エ、ポートフォリオの健康チェック欄と連動をはかる オ、半期を要し保育者の視点に気付く機会とする
- ② 「乳幼児体育」：ア、この授業の基盤である「ヒトが育ち、生きていくために、何故乳幼児期の“運動”が必要不可欠であること」の理論定着をはかる イ、我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそびの指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる視点で授業をおこなう ウ、授業構成の前半は乳児対象・中盤以降は幼児対象とし、仕上げには、部分指導案や簡単な年間プログラム作成もおこなう。また、各回に簡単な実技課題を課し、自己肯定観を促す エ、日本発育発達学会が設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の内容や、文部科学省が作成した幼児期運動指針も取り入れながら、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める
- ③ 保育・教育実践演習：担当5年目となる中、5名の授業担当者のメンバーの特徴が生かせるように随時授業調整を実施しながら授業を展開する。引き続き、社会人として保育者として巣立っていく学生に対する多方面の就業力支援をおこなう。
- ④ 実習指導／グループ担任：生活全般や現場実習に対して強い不安感や困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の気持ちを汲み取る努力をする。自身の重要課題として、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身の

ストレスを上手くコントロールする術の習得し、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援に努める。心身ともに充実した生活を営める大人になるようなサポートに努めたい。

【主な社会活動】

- ・「日本体育学会」平成 27・28/29・30 年度代議員（専門領域選出） *専門領域は、「発育発達」領域
- ・「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
- ・「神奈川県相模原市中央区区民会議」議長
- ・「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・一般社団法人 幼少年体育指導士会 理事（日本発育発達学会認定）
- ・「社会福祉法人 歩育の会」 理事
- ・「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事

【参加学会（予定）】

- ・日本保育学会（5月）
- ・日本小児保健学会（6月）
- ・日本体育学会（9月）
- ・子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・日本発育発達学会（3月）

平 田 美智子 教授

- 【研究課題】
 - ・ 地域子育て支援拠点事業の利用者支援に関する研究（NPOとの共同研究）
 - ・ 子どもの貧困の国際比較（日本社会事業大学の関連研究）
 - ・ 里親支援（里親支援専門相談員）に関する調査研究（養子と里親を考える会で）
 - ・ 国際ケースワークのアセスメントに関する研究（IFSWアジア太平洋地域プロジェクト）
 - ・ アジアにおける児童労働と女性の人身取引・災害対策（社会福祉振興・試験センターの助成事業）
- 【教育課題】
 - ・ アクティブ・ラーニングを使った授業運営
 - ・ 学生のボランティア活動支援（ボランティアサークル）
- 【学会参加予定】
 - ・ IFSWアジア太平洋地域会議（11月、中国、深淺市）
 - ・ 日本保育学会（5月20-21日、川崎医療福祉大学）（自主シンポ開催）
 - ・ 日本社会福祉学会（10月21-22日、首都大学東京）（発表予定）
 - ・ 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（6月3-4日、ビッグパレットふくしま）
- 【地域貢献】
 - ・ 相模原市と協働で児童虐待防止オレンジリボン運動（11月）推進（学生と）
 - ・ 相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流（松が丘園とパン販売）
 - ・ 相模原中央支援学校と学生の交流事業（7月、ふれあい事業にボランティアサークルが参加）

- ・ 相模原市・神奈川県中央児童相談所の里親支援（学生の保育ボランティア）
- ・ ユニコムさがみはら主催「まちづくりフェスタ」に学生と参加
- 【社会的活動】
 - ・ 国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア太平洋地域 役員（会計）
 - ・ 社会福祉専門職団体協議会 国際委員会委員
 - ・ 横浜市地域子育て支援拠点（NPO 法人グリーンママ）理事・専門相談員
 - ・ 「養子と里親を考える会」（研究会）理事
 - ・ 座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員（学識経験者）
 - ・ 大和市社会保障審議会委員
 - ・ 母子生活支援施設さくら荘第三者委員
 - ・ さくらの森保育園第三者委員
 - ・ 東京都養育家庭の会研修講師
 - ・ （社福）相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター研修講師
 - ・ （社福）相模原市社会福祉事業団 福祉研修センター意見交換会委員
 - ・ 大和市こども食堂運営委員会委員

大 下 聖 治 教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究
- ④ 身体運動遊びと安全対策に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
- ② NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進
- ③ 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員

苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

片山知子教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ① キリスト教保育の今日的課題と展望
- ② 保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
- ③ キリスト教保育の理念と保育実践の検証

2) 持続可能な発展 (ESD) の幼児教育

文科省科研費による共同研究に参加

「日本における乳幼児期の ESD ―地域で育つ・地域を創る保育・教育モデルの検討―」

3) 子育て支援のあり方

- ① 和泉短期大学での子育て支援を通してその意義を検証する
- ② 地域における子育て支援の検証 (その内容と方法等の検証も含む)

- 1) -① 一般社団法人キリスト教保育連盟の活動に参加し引き続き継続する。
- 1) -② 学生の実態に配慮した授業の工夫に努め、引き続き継続する
- 1) -③ 黒田成子のキリスト教保育関係の資料を収集し、論文にまとめる
- 2) 継続して保育学会、日本乳幼児教育学会等での発表を積み重ね、調査活動とともに共同でのまとめと報告の出版をめざす
- 3) -① 2017年3月和泉短期大学紀要にて和泉短期大学子育て支援に関する共同研究発表。引き続き継続
- 3) -② 相模原市における子ども子育て会議に副会長として参加し継続する。特に今年度は相模原市における保育相談事業における基礎調査を行い報告する。

【教育課題】 1) 担当各教科において学生の実態に即した指導内容、方法の工夫と充実

- 2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら保育、福祉の専門職への学びができるよう援助する
- 3) CDC および学内施設を有効に活用し専門職教育の充実を図る
- 4) 学生のキリスト教活動への関心をはかる

【学会参加予定】 日本保育学会

(5月20日-21日 倉敷市川崎医療福祉大学開催：研究論文ポスター発表、自主シンポジウム開催で参加)

OMEP 日本委員会総会

(OMEP 日本委員会個人会員および団体会員理事)

日本乳幼児教育学会、キリスト教教育学会

一般社団法人キリスト教保育連盟 夏期講習会

(7月25日-27日 北海道札幌市にて開催、理事長として参加)

【地域・社会貢献】 相模原市子ども・子育て会議副会長

一般社団法人キリスト教保育連盟理事長

キリスト教保育連盟神奈川部会代議員、他各部会加盟園での研修講師協力

西 田 恵一郎 准教授・チャプレン

【研究活動】

- (1) 「相互愛 — 奥村一郎神父の後を追いつつ — 」
- (2) 「人間の学としての神学を求めて」
- (3) 「いかにして学生が保育・教育・福祉に於ける召命への使命感を知るか」
※ (1) ~ (3) は 2016 年度からの継続
- (4) 「無牧教会および小規模教会の教会成長とは」 — キリスト教学校と地域教会の連携を求めて —
- (5) 著書『事実によりて』（2017 年 3 月出版）の継続研究としての死生学の研究

【教育課題】

- (1) 礼拝および授業が自分と向き合う時となり、自己を発見しながら神との出会いに繋がる。
更に保育・教育・福祉の仕事は神からの委託であると気づくことができるよう。
- (2) 宗教活動を含むすべての活動を通して愛し愛される「人」となる。
- (3) 相談業務を通して学生の学びを支援する。
- (4) 千利休の言葉に「伝わるはよし 伝えむとするはわろし」とある。学びが自身の血肉となり、そして自身の言葉が人を生かす力となる。そのような学びを目指す。
※ (1) ~ (4) は 2016 年度からの継続
- (5) 「チャペルに出席していることが礼拝に対する違和感を緩和する」との学生の声を進めて、教会に集うことが信仰を持つ、更に人格を磨く道へと継続する。

【参加予定学会等】

- (1) “The webinar series”：自身の所属学会である “The American Association for Pastoral Counselors”（アメリカ牧会カウンセラー協会）などの団体によって定期的に配信されるインターネット・セミナー
- (2) “The American Association for Pastoral Counselors” あるいは “The National Christian Counseling Association” の年次総会
- (3) 日本臨床死生学会
- (4) 日本スピリチュアル・ケア学会

【地域貢献】

- (1) 実習先の幼稚園・保育園・施設などの訪問
- (2) 日本基督教団神奈川教区教務教師（教区内巡回や青少年伝道教育の協力）

【その他委員会等】

- (1) 宗教部の活動
- (2) 学生部健康管理センター運営委員会 学生室カウンセラー（月・金曜日担当）

山 本 美貴子 准教授

- 【研究課題】 ・和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表現の課題について、学生支援ユニット実施する学生へのアンケート（2014 年度～2016 年度）結果から傾

向を調査、保育現場が学生に求める音楽的能力を探る。

- ・自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
- ・子どもの表現を育むため「保育者研修」について
園内研修内容を省察し、子どもとの生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための 保育者自身の感性・表現力・レポートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る
- ・「保育の中での音楽に関わる授業研究」
学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の概念を学ぶかを探る

【教育課題】

- ・「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習
課題のより密接で効果的な展開を探る。CDCでの発表による学習効果が得られているので、更にLCなどの積極的活用による多角的な学習を模索したい。
- ・保育内容「表現」の授業内容と方法について
非常勤担当教員との協力により、毎年度の省察・当学年の学生の傾向に基づいた、教材研究・授業形態などの細かい工夫を積み重ねて、子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する充実した授業実践の手応えを得ている。2016年度は時間割の変更により利用教室・教材ワゴンなどの使用状況の改善が見込まれるので、更に課題設定・指導方法の改善を試みる。
- ・「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
2015年度末現在16名の隊員を得られた。宗教部と連携した運営により、1年を通して充実した活動となり、クリスマス関連行事を含め、学生の参加率も高く、大きな手応えを得られた。参加学生は積極的・主体的に活動を楽しみ、夏休み・11月の集中練習も活発に行われた。一方で、多くの水曜昼休みに各種委員会・学生向け説明会など開催される為、全員揃っての練習は不可能であり、練習方法や隊員への連絡手段・隊員同士の親睦などに工夫を要した。
昨年度の反省に基づく働き掛け・宗教委員会の協力等により、今年度クリスマス以降に2名の新1年生隊員を得られた。
しかし、学事日程により1月以降の1年生の新入会・卒業入学行事に向けての練習が困難である。引き続き、準備・働きかけの工夫改善を要する。
- ・グループ運営の充実と 個別学生指導について
(2年生) 実習・進路相談について、相談可能な日時を予め提示し連絡しやすい環境を整えることで、実習・ボランティア業務によるグループ指導時間の減少をカバーするように努め、一定の効果を得られた。しかし自分で課題・状況を認識することが難しい学生との関わりについては、更に工夫を要する。
(1年生) 入学後、学生生活が安定するまでの期間に厚いサポートを要する学生が増えている。信頼関係を作り学習態度を養成する指導を模索中である。
実習指導については、共通教材・カルテファイル・Lグループ用補助教材(プリント・学習段階の設定)を活用、面談やメールでの働き掛けによる学生との

協同関係の構築を目指し一定の効果を得られた。引き続き改善を重ねる

【学会参加予定】 日本保育学会（5月）日本乳幼児教育学会（11月）日本音楽教育学会（11月）

横 川 剛 毅 准教授

【研究課題】 障がいのある人へのキリスト教会の合理的配慮

【教育課題】 ・より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
・施設への関心を喚起し、社会福祉施設への就職者を増加させる。

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

矢 野 由佳子 准教授

【研究課題】 ・保育者のメンタルヘルスに関する調査研究

・乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査

【教育課題】 ・子どもや保護者の心理に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接
することのできる保育者の育成

・心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】 日本心理臨床学会 日本発達心理学会 他

松 山 洋 平 准教授

【研究課題】

- ・「保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方」
- ・「保育者養成校による保護者主体の支え合いの仕組み作りに関する研究」
- ・「保育者の子どもを理解することの深化についての研究」

【教育課題】

- ・担当科目「保育・教職実践演習」「保育方法」「保育内容環境」「保育課程論」において、今までの教材研究を精査し、より学生の実態を捉えたの授業展開を図る。
特に「保育課程論」「保育方法」と実習指導授業との一層の関連性を高める。
- ・各実習指導などと連動した、グループ担任としての職務内容を理解し、学生理解に努める。
- ・実習先との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組みを行う。
- ・サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組みを行う。

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本乳幼児教育学会
- ・全国保育士養成協議会研究大会

【社会的活動】

- ・Will とともに語ろう（和泉短期大学卒業生研究会）
- ・相模原市協働事業
- ・幼稚園教諭免許状更新講習講師（神奈川県幼稚園協会）
- ・相模原市幼稚園協会研修部会講師
- ・横浜市幼稚園協会旭区支部研究会講師
- ・子どもと保育総合研究所 所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）

- ・川崎市認可保育所ぶどうの木登戸園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木鷺沼園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・川崎市認可保育所ぶどうの木梶ヶ谷園 要望等解決審査委員（第三者委員）
- ・荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
- ・荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
- ・ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
- ・鉄道弘済会研修会講師
- ・横浜市主任リーダー研修会講師

平 沼 晶 子 准教授

【研究課題】

- ・「保育現場における子育て支援の機能と役割」
保育者と保護者にインタビュー調査を行い、保育相談支援を行う側と受ける側の各々の変化を
発達という視点から検討する。

【教育課題】

- ・担当科目「保育内容総論」「保育相談支援」「保育の心理学Ⅱ」「保育内容 人間関係」において、
学生の学習意欲を高めるよう授業内容および教材を工夫し、よりよい学びにつなげる。
- ・研究および臨床活動を通して得た知見を授業に還元し、学生に実践的な学びを提供する。

【学会参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本心理臨床学会
- ・日本発達心理学会

【社会的活動】

- ・生涯発達研究教育センター研究員
- ・保育者へのコンサルテーション
- ・乳幼児をもつ親を対象とした子育てセミナー講師

中 野 陽 子 准教授

【研究課題】

- ・知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
- ・障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

- ・さまざまな相談援助ができる保育者の養成
- ・特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
- ・福祉施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく

【学会参加予定】

- ・日本社会福祉学会
- ・社会福祉教育セミナー
- ・日本発達障害学会他

【社会的活動】

- ・相模原市民オンブズマン
- ・県立さがみ緑風園第三者委員
- ・社会福祉法人ウィズ町田評議員
- ・社会福祉法人つぼみの家監事

久保 小枝子 専任講師

【研究課題】

- ・子ども理解と保育者の援助の在り方を幼稚園の事例から考察し、研究する。
- ・論文「スウェーデンの保育実践に学ぶ対話を通しての一考察—コミュニケーションの新たな道筋の可能性を求めて—」（その2）継続研究

【教育課題】

- ・一人ひとりの学生が保育への学びの意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
- ・「保育内容 言葉」「言語表現」「キリスト教保育」の講義を充実させるために幼稚園・保育園の事例研究、教材研究をする。保育現場での資料集め、見学、インタビューを中心にを行い、理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
- ・担任グループの学生の学生生活の充実と保育技術習得の支援

【学会等の参加予定】

- ・日本保育学会
- ・日本キリスト教教育学会
- ・キリスト教保育連盟 夏期講習会
- ・キリスト教保育者協議会
- ・OMEP（世界幼児教育・保育機構）日本委員会

【社会的活動】

- ・2005～キリスト教保育連盟 月刊雑誌『キリスト教保育』3.4.5歳児「心にとめて」執筆
- ・2007～思いやり研究会 研究員
- ・2013～幼児保育実践研究会 会員
- ・2015～キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会（3.4.5歳児カリキュラム作成）
- ・2016～子育てひろば「はっぴい」の運営・企画

八 代 陽 子 専任講師

【研究課題】

- ・保育者の成長にかかわる人間関係の研究
「保育者の困難の変化のプロセス」と、「保育者を取り巻く人間関係」に焦点を当て、保育者の記録とインタビューを縦断的に行い、保育者の成長と人間関係との関連を探る。
- ・保育者養成における学生生活と well-being の影響
学生生活のどのような時に well-being が向上したり低下したりするのか、アンケート調査により探る。

【教育課題】

- ・学生の主体的な学びを高めるための授業研究
「子どもの保健Ⅰ」での学びを踏まえ、「子どもの保健Ⅱ」では、学生が学びに対する

受け身のすることなく、学生自ら考え、実践的に学べるよう、ストーリー学習を取り入れる。「学生の学びの内容」、「授業への取り組みに関する意識」、「授業プロセス」を学生へのアンケート調査等により検討し、さらなる授業改善を目指す。

【所属学会等】

- 2008年11月 日本医療保育学会
- 2011年4月 日本保育学会
- 2012年7月 日本乳幼児教育学会
- 2015年7月 日本保育園保育保健協議会
- 2016年9月 日本保育者養成教育学会

専攻科介護福祉専攻

佐久間 志保子 准教授

- 【研究活動】**
- ・医療的ケアに対する介護職員の意識調査
 - ・口腔ケアに対する専攻科の意識調査
 - ・災害に関する小規模高齢者・障害者施設の取り組み
- 【学会参加予定】**
- ・日本在宅ケア学会
 - ・日本社会福祉学会
 - ・日本介護福祉教育学会
 - ・日本環境感染学会
 - ・日本認知症ケア学会
 - ・日本看護科学学会

佐藤 美紀 専任講師

- 【研究活動】**
- ・傾聴ボランティアにおける認知症高齢者との関わりの課題
 - ・高齢者福祉施設における移動・移乗研修に関する調査
- 【学会参加予定】**
- ・日本介護福祉学会
 - ・認知症ケア学会

下西 潤子 特任講師

- 【研究課題】**
- ・在宅ケアを支えるために求められること
 - ・社会福祉施設でケアを担う人たちのストレス要因と解消法
 - ・職員研修の効果 II
- 【教育課題】**
- ・「介護福祉士養成教育」を支える学生と教員の思考過程
～楽しむ授業・教材の開発～
- 【学会参加予定】**
- ・日本介護福祉教育学会
 - ・日本老年行動科学学会

- ・ 日本介護福祉学会
- ・ 日本難病看護学会
- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本認知症ケア学会

【社会的活動】

- ・ 障がい者グループホームにおける健康管理
- ・ あさひ社会福祉法人の職員研修

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2017年度は下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①学修時間の促進と強化に伴う学修環境の整備と組織的運営の構造整備・改革
（時間割構成 5 時限化の安定的運用と学修促進との関連省察）
- ②教育内容の体系化の充実（3 ポリシーに沿ったシラバス作成要綱の作成と運用）
- ③新たな教育方法の導入にむけた検討
 - ・アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL）等、
 - ・授業担当者に対する促進 Google Class への転換と活用
 - ・ラーニングセンターWILL の運営管理）
 - ・オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価
（非常勤講師のオフィスアワーの明確化）
- ④実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討（「実習・ボランティアセンター委員会」との協働）
- ⑤ハード面における環境整備の提案
 - ・教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学修室（カフェ）化）
 - ・IT 教育環境の整備（学生ホール・及び IT 関連授業の教室環境整備）
- ⑥障がいその他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討
（「障がい学生修学支援委員会」との協働）2015 年度生対象者なし、2016 年度生調査必要
- ⑦CDC、LC “Will”、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認
（特に Google Class への転換とスムーズな運営のための人材確保）

（2）学びの組織的支援

- ①ポートフォリオの充実と取り組み内容・方法の工夫（「ポートフォリオ委員会」との協働）
- ②初年次教育のあり方の検討
（短期大学における初年次教育、保育者養成校における初年次教育）
- ③中途退学防止に向けた取組みの充実（「離学者検討委員会」との協働）
- ④キャリアデザインセンター・ラーニングセンター支援者を中心とする
「保育者を目指す学びへの支援」に関する検討（「キャリアデザイン委員会」との協働）
- ⑤入学前教育の内容更新と充実（方法・内容等の再検討）
- ⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映
- ⑦学びの組織的支援充実のための構造整備（教務委員会下部組織の整備と確認）

（3）学修の評価

- ①アセスメントポリシー策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討

- ③GPA 制度の活用に向けた検討
(実習実施条件、及び表彰条件等への活用 実習ボランティアセンターと協働)
- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

- ①学校間連携の充実 (保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)
- ②高大連携プログラムの充実 (聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等)
- ③産官学連携のあり方の検討 (日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、相模原市高齢者施設協議会 等)
- ④地域連携のあり方の検討 (地域連携推進委員会と協働)
- ⑤専門職団体等との連携の充実 (キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園協会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等)
- ⑥保証人との連携の充実 (保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携)

(5) 生涯教育

- ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進 (リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣等) IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
- ②大学公開講座の充実 (相模原市との共催 等)

(6) キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進 (キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」との協働)
- ②資格取得支援 (保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他)
- ③「保育ふれあい体験 (保育園)」・「福祉ふれあい体験」のカリキュラム化と体験の充実化
「幼稚園ふれあい体験」の新設とカリキュラム化

(7) FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成 («自己点検・評価委員会」との協働)
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教員参加のFD 研修会開催 («ファカルティディベロップメント委員会」との協働)
- ⑤学生FD 委員会活動への支援

(8) 教員の交流と研究活動の支援

- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
- ②教員の研究活動の推進
(研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等)
- ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討

(9) 情報公開・情報収集の推進

- ①自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）
- ②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）
- ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集（「IR委員会」との協働）
- ④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR委員会」との協働）

学生委員会（学生部長 大下 聖治）

- (1) 学生支援におけるグループアドバイザーとの連携強化を図る。
- (2) 学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- (3) 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- (4) キャリアデザインⅠ（学生生活支援）・キャリアデザインⅡ（進路支援）の充実を図る。
- (5) 学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- (6) 学生の賞罰に関すること。
- (7) 学友会活動（いずみ祭・新入生歓迎大会・卒業パーティー委員会等）を支援する。
- (8) 学生の課外活動を支援する。
- (9) 健康管理センターを充実させる。

入試広報委員会（入試広報部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係

- ①学園報（izumi NEWS）の発行
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）、オープンキャンパスの開催及び充実のための検討
- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑥公開授業（WEEKDAY CAMPUS VISIT）の開催及び充実のための検討
- ⑦公開授業（市内小学校・中学校・高校教員対象）の開催及び充実のための検討
- ⑧和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑨WEB情報（ホームページ、ライン、フェイスブック）の充実のための検討
- ⑩教職員説明会の開催
- ⑪同窓会との交流
- ⑫その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①各入試（iA0入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③各大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習・ボランティアセンター委員会（実習・ボランティアセンター長 山本 美貴子）

1. 実習に関する業務

- (1) 実習施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整

- ② 実習連絡会の実施（実習種別年3回）
- ③ 「実習・実習指導 実施要項ー実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付（年1回）
- (2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援
 - ① 授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
 - ② 実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
 - ③ 実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
 - ④ 実習前面談の企画・資料作成・実施。
 - ⑤ 「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供・資料作成）
- (3) 実習実施に関わる業務
 - ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
 - ② 上記①の実施期間の一本化への努力（1月期：保育所、2月期：施設）
 - ③ 実習登録の受付と配属
 - ④ 学生の諸手続の支援（登録カード、実習生調書、各種検査、実習の記録、実習定期等）
 - ⑤ 細菌検査・予防接種抗体検査等に関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
 - ⑥ 巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表。
 - ⑦ 巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き。
 - ⑧ 実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
 - ⑨ 学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理。
 - ⑩ 実習先パンフレット等関連資料の収集と学生への提供
- (4) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ① 実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ② 「実習ルールブック」作成、配布。
 - ③ 実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④ 実習評価票、出勤簿の改訂、作成、配布。
- (5) 学生の個別的支援を要する事例について、実習指導授業担当教員との連携・協議等。

2. ボランティア活動

- (1) ボランティア募集に関するパンフレット受付・掲示
- (2) ボランティア参加学生一覧の作成
- (3) その他のボランティア活動に関わる支援

3. 2017年度の重点課題

- (1) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）
- (2) CDC委員会、ポートフォリオWGとの連携による実習指導内容の精査・充実。
- (3) 2017年度も実習・ボランティアセンター内の現在の明朗な協力体制・支援の質を維持、更に職務分掌・作業や連絡時期と方法の工夫により、更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (4) 2016年度に再構築・改善された実習管理システムを活用、情報提供の質の向上を図る。
- (5) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法を工夫する（書類・各種フローチャート・メール・電話等）。

- (6) 引き続き、各実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (7) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に大きく関わる「実習の記録」(日誌)の作成について、引き続き、授業「保育課程論」指導担当教員との連携を図り指導内容をさらに向上する。
- (8) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージできる授業内容を目指し、グループ・全体・1.2年生共同・施設種別・実習先別授業などを絡めた授業内容と、LC・CDCを活用した自己学習の連携・構成を図る。
- (9) 2017年度生からの利用を目指し、新「実習評価票」の作成・活用方法の工夫により、実習先との一層の連携を図り、実習の事前・実習中・事後学習に資する実習評価・質の高い実習の実施を目指す。
- (10) 2018年度以降のボランティア関連業務に関して、地域連携推進委員会との連絡・相談・連携を図り、新システムの準備作業を進める。
- (11) 実習関連経費ほかに関する課題の分析と改善策の検討。

地域連携推進センター委員会 (委員長 櫻井 奈津子)

本委員会のもとに以下の委員会を置き、それぞれのワーキンググループを中心に活動を行う。

【図書委員会】(委員長 櫻井奈津子)

1. 研究紀要発行に関する検討
 - ①査読付き論文を含む研究紀要の発行
 - ②研究紀要の電子化の検討
2. 特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
3. 蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
4. 図書館利用者サービスの向上
 - ①業務用パソコンの安定稼働と迅速なデータ処理
 - ②AVルーム・共同研究室の充実
5. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備(掲示・声かけ等の取り組み強化)
 - ②図書未返却者への督促強化
6. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
7. 図書館サポーター活動の充実
 - ①選書ツアー
 - ②POP制作・展示
 - ③学生からの意見・提案聴取
8. 図書館主宰イベントの実施
 - ①折り紙コンテスト

②クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）

9. 図書館ホームページの充実
10. ラーニングセンターwill との連携強化
11. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会の開催
(2017年6月1日(木) 15:00～ 本学が会場校となり実施)

【地域連携推進委員会】（委員長 井狩芳子）

1. オレンジリボン活動（相模原市包括連携協定校事業関連）
 - ①年間スケジュールの立案と把握
 - ②各重点行事の充実
2. 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度（相模原市包括連携協定校事業関連）
 - ①学生宛啓蒙・周知のための立案
 - ②年間を通じた学生周知
 - ③相模原市への推薦業務（年度末）
3. 第5回まちづくりフェスタ（はっぴいアクアリウムプロジェクトの終了後の活動として）
 - ①第5回まちづくりフェスタ参加に向けての検討（実施内容及びスタッフ学生の募集方法等）
4. さがまちコンソーシアム関連
 - ①平成29年度「市民大学」実施状況についての把握
 - ②コンソーシアム公開講座（さがまちカレッジの内容検討と実務）
5. 関連事項・ニュース等の把握・広報

【子育て支援プログラム委員会】（委員長 片山知子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月1回、土曜日）
 - ①子育て家族への支援
安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
保育支援者によるサポート体制
ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）
 - ②学生に実践的な学びの場を提供する
乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供
学生主体の企画を発表する場の提供
事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供
参加学生との交流・実践的研修の提供
 - ③入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する
 - ④卒業生との連携
活動時のボランティア受け入れ
子育て世代の親子参加の促進
同窓会広報活動への協力
 - ⑤その他
参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る
2. CDCの整備及び子育てひろば「すまいいい」（施設開放：毎週木曜日の実施）との連携

- ①地域親子に CDC を遊び場として開放する
保育環境に相応しい網戸の設置を継続して要望していく
 - ②学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備
 - ③保護者からの相談に対して、情報提供（専門機関の紹介も含む）や子育てのアイデア・季節に応じた話題の提供を行う
 - ④子育て講演会や保護者間の交流等の企画
3. 「いっしょに子育て」の相模原市地域協働事業の実施を通し、質の高い子育て支援のあり方を提案・連携する

7. 広報活動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2017年	4月中旬発行予定
・奨学金リーフレット	2017年	4月中旬発行予定
・高校1,2年生向けリーフレット	2017年	4月中旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2017年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2017年	4月下旬発送予定
・izumi NEWS 33号	2017年	5月下旬発行予定
" 34号	2017年	8月上旬発行予定
" 35号	2017年	12月上旬発行予定
" 36号	2018年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2017年	7月上旬発送予定
・ " ②(学園祭)	2017年	9月下旬 "
・ " ③(クリスマスカード)	2017年	12月上旬 "

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・高等学校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・和泉プレカレッジ（6月3年生対象・12月1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・市内小学校、中学校、高校教員対象公開授業
- ・オープンキャンパス・個別相談会

オープンキャンパス	第1回	4月22日（土）
同	第2回	5月28日（日）
同	第3回	6月17日（土）
同	第4回	7月8日（土）
同	第5回	7月29日（土）
同	第6回	8月26日（土）
同	第7回	9月16日（土）
同	第8回	3月24日（土）
個別相談会	10月28日（土）・29日（日）※学園祭	

・ミニオープンキャンパス

ミニオープンキャンパス	第1回	5月13日（土）
同	第2回	6月10日（土）
同	第3回	8月5日（土）
同	第4回	9月2日（土）
同	第5回	10月7日（土） ※教員参加（相談担当）
同	第6回	11月25日（土） ※教員参加（相談担当）
同	第7回	12月16日（土） ※教員参加（相談担当）

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業（随時）

- ・ かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（４月）
- ・ 進学相談会（会場形式）（随時）
- ・ 「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」（かながわ大学生涯学習推進協議会）（７月・９月）

（４）公開講座

- ・ 市民大学（相模原市・座間市と共催）前期・後期２講座
- ・ さがまちカレッジ「中学生対象講座」（１２月）
- ・ WEEKDAY CAMPUS VISIT（授業参加型体験プログラム）

和泉短期大学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2017年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)ビー・プライム	デジタルパンフレット	1年間
	本学ホームページ公式サイト制作 Facebook	
(株)リクルート	スタディサプリ進路 (インターネット商品)	1年間
	進学事典	1月
	進学事典	4月
	就職・資格・キャリア号	3月
キッズコーポレーション(株)	学校ガイド (インターネット商品)	1年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典	4月
(株)昭栄広報	進路ノート (大学・短期大学編)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	4月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4月
(株)ディスコ	LINE	1年間
(株)育伸	TRI-ANGLE (インターネット含む)	4月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4月
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告	7月
	〃 元月号・名刺広告	1月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1月
(株)ショッパー社	新年名刺広告	1月
(一社)キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称保守管理	1年間
廣告社(株)	小田急線まど上連合広告	1年間
	JR横浜線まど上連合広告	1年間

2017(平成29)年度 事業計画

(単位:千円)

(教員関係経費)

研究費	児童福祉学科	単価	×	教員数	金額
○ 教授		270	×	8	2,160
○ 特任教授		270	×	1	270
○ 准教授		260	×	7	1,820
○ 専任講師		250	×	2	500
○ 助教		50	×	1	50
				19	計 4,800
専攻科		単価			
○ 准教授		260	×	1	260
○ 専任講師		250	×	1	250
○ 特任講師		250	×	1	250
				3	計 760
				22名	計 (5,560)

学長裁量費

- 和泉特別研究費
- 大学教育改革プログラム

計 1,300

合計 6,860

教材費	○ 専任・非常勤教員	2017年度予算額	3,049
旅費交通費	○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回まで	22名	2,200

(施設)

内容	設置場所	金額
土地 ○ 土地(1,536㎡)<第2号基本金> 2016年度から繰り延べ	スクールバス駐車場 2号館隣地	繰延 ① 100,000
計 (100,000)		108,908

建築物	○ 天井耐震補強工事	非構造物	3号館、4号館	新規 ②	6,618
建築物	○ 災害対策用井戸工事	深度30m	いこいの広場	新規 ②	2,290

(設備)

内容	個数	設置場所	金額
教育研究用機器備品 ○ 災害対策用造水機(学校施設防災機能強化事業対象)		1号館倉庫	新規 ② 3,780
○ 災害対策用揚水ポンプ	1	1号館倉庫	新規 ② 357
計 (4,137)			5,177

図書	○ 児童福祉学科 1,000 専攻科 40		1,040
計 (1,040)			1,040

2017(平成29)年度 事業計画

(単位:千円)

新規及び主な経費

	内 容	個 数	場 所		金 額	
消 耗 品 費	災害対策用防火水槽(折り畳み式)	1		新規 ②	81	
	災害対策用 発電機、ポンプキット	2		新規 ②	272	
	テーブル、イス	テーブル 1、イス8脚		学長室	新規 ④	151
	学生証(Suica他付き)	273				750
	照明器具交換	52		ピアノ室他		540
	プランター花植え込み他			学内外		359
	計				(1,800)
印 刷 費	○ 児童福祉研究室 研究誌、パンフレット		350		③	1,000
	○ カルテファイル		250			198
	○ 学生手帳		350			859
	○ 研究紀要		350			549
	○ 自己点検・評価報告書		150			113
	○ 名刺、封筒					371
	計				(3,090)
光 熱 水 費	○ 電気				13,205	
	○ 水道				1,999	
	○ プロパンガス				1,156	
計				(16,360)	
通 信 費	○ インターネット基本料金、デジタルサイネージ通信				596	
	○ 保護者宛成績通知、保証人会、学納金、求人票				271	
	○ 電話料				763	
計				(1,630)	
維 持 修 繕 費	○ 特定天井耐震改修工事		食堂、ラウンジ	3号館、4号館	修繕 ②	6,166
	○ 網戸7か所(窓 2枚、扉 7枚)			1号館	修繕 ④	550
	○ 教室扇風機設置	20台		小教室	新規 ④	1,750
	○ 出入り口ドア修理			3号館	修繕 ④	1,020
	○ 正面玄関出入口自動ドア修理			1号館	修繕 ④	239
	○ 出席管理システム保守料					686
	計				(10,411)
支 払 報 酬 手 数 料	○ スクールバス委託運行費		@880.2 × 4台 × 12 M		42,677	
	○ 派遣職員	2名		will、学情	7,266	
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬				3,801	
	○ 校医料、健康診断料				973	
	○ 食堂委託管理費				2,469	
	○ 管理人業務費				7,458	
	○ 業務用システム維持支援費				1,124	
	○ 学生・教職員安否確認システム	700			558	
	計				(66,326)
賃 借 料	○ 防犯カメラシステム一式 モニター、レコーダー	カメラ 22台		本館、研究棟、体育館	取替更新 ②	685
	○ ペーパーレス会議システム	23		教授会		573
	○ 教員用ノートパソコン			研究室		521
	○ 職員用ノートパソコン	再リース 25台、サーバー1台		事務局		48
	○ コピー機、ファックス	1号館・2号館		4台		604
	○ 借植木					378
	○ 公用車(軽自動車)リース料			1台		324
	○ スクールバス駐車場賃料	2号基本金対象		2号館隣地		2,400
	計				(5,533)

2017(平成29)年度 事業計画

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費	内 容	個 数	場 所	金 額
奨 学 費 (給 付)	○ 眞鍋記念奨学金	10名		650
	○ 児童福祉奨学金	3名		300
	○ 卒業生・在学生家族	12名		600
	○ 就学奨励奨学金	25名		1,870
計 (3,420)
広 報 宣 伝 費	○ 入学案内書、媒体広告他			22,249
	計 (
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃		全 館	13,807
	計 (
既存建物撤去費	○ 天井耐震工事 既存天井撤去費		3.4号館	6,061
	新 規 ②			
雑 費	○ 天井耐震工事 撤去材処分費		4号館	707
	○ 卒業生記念品他			522
	計 (

単位 : 千円

※ 2017年度特別事業経費

計 131,727

○ 土地取得経費	2号館隣接地	総 額 ①	100,000
○ 災害・防犯安全強化対策費		総 額 ②	27,017
	災害対策用井戸設置工事(文部科学省補助金対象事業申請)		6,780
	特定天井耐震改修工事(文部科学省補助金対象事業申請)		19,552
	防犯カメラシステム(取替更新・増設)		685
○ 児童福祉研究室 研究誌、パンフレット		新 規 ③	1,000
○ その他の新規事業、修繕工事等		総 額 ④	3,710

資金収支計算書 (2013年度 ~ 2017年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

専門学校校舎売却

科 目		専 門 学 校 校 舎 売 却			予 算	予 算
		25年度 2013年度	26年度 2014年度	27年度 2015年度	28年度 2016年度	29年度 2017年度
収 入 の 部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	679,471	663,136	704,937	665,150	600,240
	手 数 料 収 入	9,773	11,241	9,884	8,470	8,430
	寄 付 金 収 入	1,275	1,337	1,060	1,000	1,000
	補 助 金 収 入	60,564	58,750	65,257	40,100	40,100
	資 産 売 却 収 入	120,000	0	212	0	0
	付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	2,410	916	2,692	2,559	1,193
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	22,165	13,315	9,250	7,000	14,165
	雑 収 入	18,604	1,921	32,457	4,965	18,896
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	230,590	270,520	235,160	213,450	213,450
	そ の 他 の 収 入	295,735	333,582	22,261	149,682	129,509
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 276,921	△ 230,590	△ 312,052	△ 213,040	△ 204,815
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,836,611	1,863,486	2,037,843	2,069,085	2,136,000
合 計	3,000,277	2,987,614	2,808,961	2,948,421	2,958,168	
支 出 の 部	人 件 費 支 出	403,582	375,093	417,217	399,322	403,600
	教 育 研 究 経 費 支 出	121,844	135,894	120,456	171,639	126,979
	管 理 経 費 支 出	103,912	99,875	95,228	110,343	105,275
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	23,221	23,306	386	101,483	108,908
	設 備 関 係 支 出	26,612	6,224	30,183	10,891	5,177
	資 産 運 用 支 出	418,288	301,875	70,684	46,528	82,611
	そ の 他 の 支 出	42,592	9,078	7,332	10,576	11,575
	予 備 費 支 出	0	0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 3,260	△ 1,574	△ 1,610	△ 1,787	△ 1,610
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,863,486	2,037,843	2,069,085	2,069,426	2,085,653
	合 計	3,000,277	2,987,614	2,808,961	2,948,421	2,958,168
資 金 収 支 差 額	26,875	174,357	31,242	341	△ 50,347	
短 期 大 学 学 生 数	546名	533名	577名	575名	488名	
専 門 学 校 (専 攻 科) 学 生 数	19名	23名	19名	18名	23名	
前 年 度 対 比 学 生 数	△ 9名	△ 9名	40名 増	△ 3名	△ 82名	

事業活動収支計算書 (2013年度 ~ 2017年度)

学校法人和泉短期大学

専門学校校舎売却

(単位:千円)

予 算

予 算

科 目	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度			
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	679,471	86.6%	663,136	88.1%	704,937	86.7%	665,150	91.1%	600,240	87.8%	
	手数料	9,773	1.2%	11,241	1.5%	9,884	1.2%	8,470	1.2%	8,430	1.2%	
	寄付金	1,275	0.2%	1,337	0.2%	1,060	0.1%	1,000	0.1%	1,000	0.1%	
	経常費補助金	51,352	6.5%	58,750	7.8%	52,807	6.5%	40,100	5.5%	40,100	5.9%	
	付随事業収入	2,410	0.3%	916	0.1%	2,692	0.3%	2,559	0.4%	1,193	0.2%	
	雑収入	18,604	2.4%	4,224	0.6%	32,457	4.0%	5,826	0.8%	18,896	2.8%	
	教育活動収入計	762,885	97.2%	739,604	98.2%	803,837	98.9%	723,105	99.0%	669,859	97.9%	
	教育活動支出の部	人件費	396,826	50.5%	375,093	49.8%	415,229	51.1%	399,322	54.7%	401,884	58.8%
		教育研究経費支出	179,526	22.9%	197,030	26.2%	179,426	22.1%	232,639	31.9%	185,638	27.1%
		(減価償却額)	57,682	8.4%	61,139	9.0%	58,967	8.5%	61,000	8.1%	58,659	8.4%
		管理経費支出	109,670	14.0%	106,488	14.1%	101,982	12.5%	117,525	16.1%	112,623	16.5%
		(減価償却額)	6,320	0.9%	6,568	1.0%	6,716	1.0%	7,182	1.0%	7,348	1.0%
		教育活動支出計	686,022	87.4%	678,611	90.1%	696,637	85.7%	749,486	102.7%	700,145	102.4%
教育活動収支差額	76,863	10.1%	60,993	8.2%	107,200	13.3%	△ 26,381	-3.6%	△ 30,286	-4.5%		
教育活動外収支	資産運用収入	22,165	2.8%	13,315	1.8%	9,250	1.1%	7,000	1.0%	14,165	2.1%	
	教育活動外収入計	22,165		13,315		9,250		7,000		14,165		
	教育活動外支出計	0		0		0				0		
	教育活動外収支差額	22,165		13,315		9,250		7,000		14,165		
経常収支差額	99,028	12.6%	74,308	9.9%	116,450	14.3%	△ 19,381	-2.7%	△ 16,121	-2.4%		
特別収支	資産売却差額					212		0		0		
	その他の特別収入	9,212				12,450	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	
	特別収入計	9,212		0		12,662		0		0		
	資産処分差額	118,393		4,041		383		0		2,218		
	その他の特別支出					22,370		0		0		
	特別支出計	118,393		4,041		22,753		0		2,218		
特別収支差額	△ 109,181		△ 4,041		△ 10,091		0		△ 2,218			
【予備費】							30,000		30,000			
事業活動収入	794,262		752,919		825,749		730,105		684,024			
事業活動支出	804,415		682,652		719,390		779,486		732,363			
基本金組入前当年度収支差額	△ 10,153		70,267		106,359		△ 49,381		△ 48,339			
基本金組入額	△ 30,000		△ 14,426		△ 615		△ 8,901		△ 9,849			
当年度収支差額	△ 40,153		55,841		105,744		△ 58,282		△ 58,188			
前年度繰越収支差額	2,179,198		2,684,614		2,740,455		2,861,924		2,803,642			
基本金取崩額	545,569		0		15,723		0		0			
翌年度繰越収支差額	2,684,614	0	2,740,455	0	2,861,922		2,803,642		2,745,454			
事業活動収支差額比率	-1.3%		9.3%		12.9%		-6.8%		-7.1%			